

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 法人企業統計季報(2010年1-3月期)

発表日2010年6月3日(木)

～売上、利益の改善が進むも、設備投資は弱め～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位: %)

		全産業			製造業			非製造業		
		売上高	経常利益	設備投資	売上高	経常利益	設備投資	売上高	経常利益	設備投資
		前年比								
06年	1-3月期	5.0	4.1	13.6	6.4	5.5	20.9	4.4	3.2	10.1
	4-6月期	8.6	10.1	18.4	5.7	11.4	15.2	10.0	9.1	20.1
	7-9月期	7.3	15.5	11.9	4.3	18.2	8.3	8.6	13.5	14.0
	10-12月期	7.0	8.3	17.6	7.0	14.8	15.5	7.0	2.9	18.8
07年	1-3月期	6.3	7.4	14.2	2.4	7.2	13.6	8.0	7.6	14.6
	4-6月期	3.3	12.0	▲ 5.7	7.0	17.3	10.7	1.8	8.0	▲ 14.0
	7-9月期	2.0	▲ 0.7	▲ 0.6	7.6	▲ 3.6	5.0	▲ 0.5	1.5	▲ 3.7
	10-12月期	2.3	▲ 4.5	▲ 7.3	6.5	▲ 3.3	0.5	0.4	▲ 5.7	▲ 11.5
08年	1-3月期	▲ 1.5	▲ 17.5	▲ 5.3	5.9	▲ 15.7	0.7	▲ 4.5	▲ 18.6	▲ 8.4
	4-6月期	▲ 0.7	▲ 5.2	▲ 7.6	1.4	▲ 11.7	0.3	▲ 1.7	0.2	▲ 12.7
	7-9月期	▲ 0.2	▲ 22.4	▲ 13.3	▲ 1.5	▲ 27.6	▲ 1.3	0.5	▲ 18.5	▲ 20.7
	10-12月期	▲ 11.6	▲ 64.1	▲ 18.1	▲ 16.3	▲ 94.3	▲ 12.3	▲ 9.3	▲ 35.0	▲ 21.7
09年	1-3月期	▲ 20.4	▲ 69.0	▲ 25.4	▲ 31.4	赤字	▲ 22.1	▲ 15.3	▲ 22.1	▲ 27.3
	4-6月期	▲ 17.0	▲ 53.0	▲ 22.2	▲ 26.8	▲ 89.2	▲ 32.8	▲ 12.4	▲ 26.4	▲ 14.3
	7-9月期	▲ 15.7	▲ 32.4	▲ 25.7	▲ 21.2	▲ 69.3	▲ 41.4	▲ 13.1	▲ 7.8	▲ 13.7
	10-12月期	▲ 3.1	102.2	▲ 18.5	▲ 4.9	864.7	▲ 35.7	▲ 2.4	38.1	▲ 6.7
10年	1-3月期	10.6	163.8	▲ 12.9	19.1	黒字	▲ 32.2	7.5	5.2	▲ 1.0

(出所)財務省「法人企業統計季報」、※設備投資は除くソフトウェア

○ 07年4-6月以来の増収増益

本日、財務省から2010年1-3月期の法人企業統計季報が公表された。売上高が07年10-12月期以来の増加に転じ、増収増益になるといった好材料もあったが、設備投資は予想対比弱めの結果となるなど、強弱混在の内容だった。企業部門の回復傾向は続いているが、未だ力強さには欠けるということだろう。

全規模・全産業ベースの経常利益(金融業、保険業除く)は前年比+163.8%と、2四半期連続で大幅に増加した。季節調整値でも前期比+10.9%(10-12月期:同+35.8%)と4四半期連続で二桁の伸びになっており、企業収益の改善が続いていることが示された。季節調整値の水準を見ても、足元ではリーマンショック直前である08年7-9月期を上回っており、利益水準の回復も徐々に進んでいることが確認できる。また、売上高が前年比+10.6%(10-12月期:同▲3.1%)と増加し、07年4-6月期以来となる増収増益に転じていることも重要である。これまで企業収益の改善は、企業のコスト削減や(前年比でみた)原材料価格の下落によってもたらされている面が強かったが、ここきて売上の増加が利益を押し上げる構図が鮮明になっている。先行きについても、輸出回復に牽引される形で売上の増加が続くとみられることから、経常利益は着実に改善していくことが予想される。

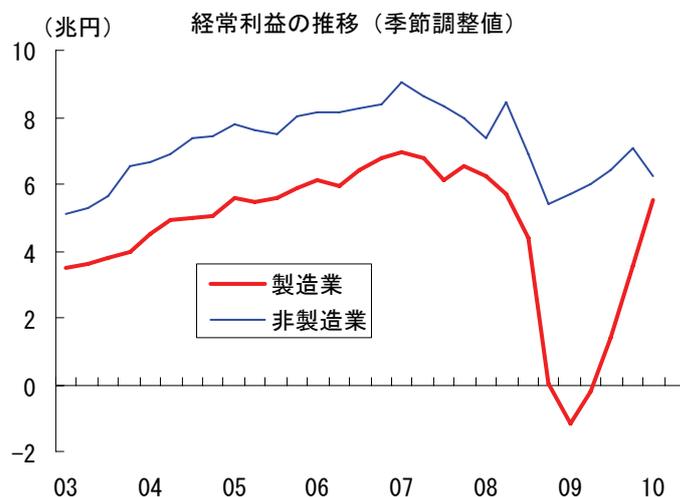
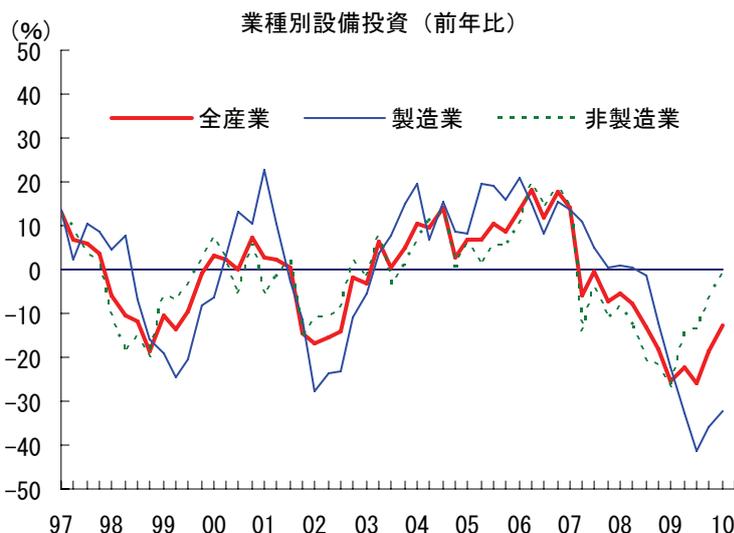
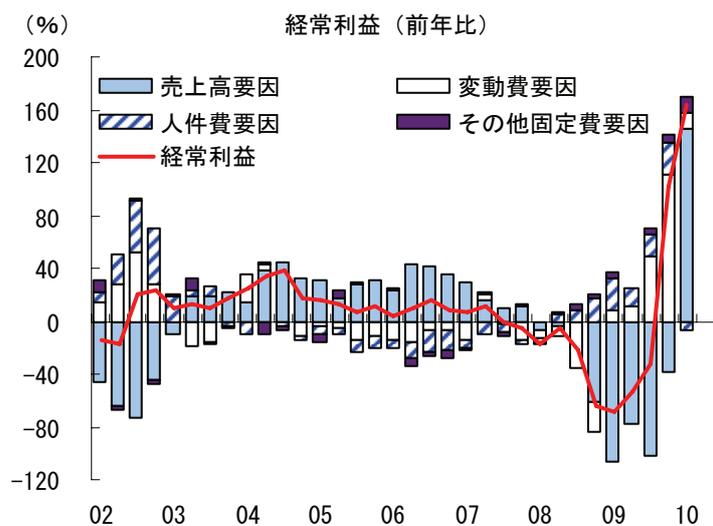
なお、製造業では経常利益の季節調整済み前期比が+56.3%と大幅な増加が続く一方、非製造業では同▲11.8%と減少している。非製造業についても利益が改善傾向にあることは確かだが、製造業に比べると回復の足取りは鈍い。

○ 設備投資は下振れ

企業業績の改善がみられた一方で、設備投資は弱めの結果に終わった。設備投資(ソフトウェア投資額除く)は、前年比では▲12.9%と10-12月期の同▲18.5%から減少幅が縮小したが、季節調整済み前期比では

▲2.6%と減少に転じている。業種別に見ても、製造業が前期比▲6.1%、非製造業が同▲0.9%とともに悪化した。足元の経済指標には設備投資が緩やかに持ち直していることを示すものが多く、1-3月期のGDP統計1次速報でも設備投資は増加していただけに、やや意外感のある結果である。建設仮勘定が減少していることから考えて、建設投資の減少が下押しした面もあるのだろう。この結果、6月10日に公表される予定である2010年1-3月期GDP2次速報では、設備投資が1次速報段階（前期比+1.0%）から下方修正される可能性が高そうだ。

このように、設備投資が期待外れの結果に終わり、従来想定されていたよりも足元の回復ペースが鈍かったことが示されたわけだが、これをもって設備投資に対する見方を弱気化する必要はない。企業収益の改善傾向や稼働率の上昇、企業マインドの改善といった外部環境の好転に加え、先行指標である機械受注も持ち直していることを踏まえると、設備投資が増加傾向にあるという見方は維持すべきだろう。先行きも、輸出の増加と設備投資の緩やかな持ち直しが景気を支えていくと予想している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。